

【目次】

1. 住宅生協の皆さんが1日、四国電労愛媛県本部の皆さんが22日に当歴史館を見学！
2. 労働資料協総会に参加、11月21日・22日！
3. 同盟解散30年を記念し、同盟本部書記局OB・OG会が開かれる、11月19日！
4. 連載「日本労働会館物語」第69回―戦後民主化のリーダー 片山哲その1―

1. 住宅生協の皆さんが1日、四国電労愛媛県本部の皆さんが22日に当歴史館を見学！

全国住宅生活協同組合連合会の皆さんが11月1日（水）午後、友愛労働歴史館に来館されました。最初に当館研修室で企画展解説スライド「賀川豊彦と友愛会・総同盟」による解説、説明を受け、その後に企画展「賀川豊彦と友愛会・総同盟」（2017.7.6～12.22）と常設展「日本労働運動の100年余―友愛会・総同盟（戦前）を中心とする」（2012.08.01～）を見学されました。

また、22日夕方には国会見学を終えた四国電労愛媛県本部（新田聡委員長）の皆さんが来館され、最初に当館研修室で友愛労働歴史館紹介スライド「ようこそ友愛労働歴史館へ」による解説、説明を受けました。その後に企画展「賀川豊彦と友愛会・総同盟」と常設展「日本労働運動の100年余」を見学されました。

この他、17日（金）には友愛会館会議室で研修会を開催していたJXTG労働組合の皆さんが、研修の合間に当歴史館展示室を自由見学されました。これにより11月1日から24日までの当館来館者は個人の方や研究者などを含め118名となり、企画展や常設展の見学、資料の閲覧などを行いました。

2. 労働資料協総会に参加、11月21日・22日！

労働関係資料のリユースを行う社会・労働関係資料センター連絡協議会の2017年度定期総会と研修会は、11月21日～22日の間、愛知県名古屋市と三重県四日市市で開催されました。



21日の2017年度総会（略）の後、翌22日には愛知県図書館とウィंक愛知（愛知県産業労働センター）、四日市公害と環境未来館の見学ならびに活動について研修し、参加者同士のフリートークも行われました。友愛労働歴史館からは安部千恵さんが参加しました。

3. 同盟解散30年を記念し、同盟本部書記局OB・OG会が開かれる、11月19日！



1987年11月19日（日）はかつての中央労働団体の一つ同盟が、民間連合結成に伴い組織を解散した日。これを記念し19日昼、友愛労働歴史館研修室で元同盟本部書記局員有志による同盟OB・OG会が開かれました。かつて労働界には労働4団体と呼ばれた総評・同盟・中立労連・新産別が長く競合していましたが、1987年11月20日の民間連合結成に伴い同盟・中立労連・新産別が解散し（総評は官民統一連合の1989年に解散）、今日に繋がる連合労働運動がスタートしたのです。

4. 連載「日本労働会館物語」第69回—戦後民主化のリーダー 片山哲その1—



2018年は片山哲（1887.07.28～1978.05.30）の没後40年、片山連立内閣（1947.5.24～1948.3.10）の崩壊から70年となります。友愛労働歴史館はこれを記念し、クリスチャン、弁護士、政治家として活躍し、戦後日本の民主化をリードした片山哲を取り上げ、企画展「戦後民主化のリーダー 片山 哲」（2018.01.05～06.29）を開催します。

そこで今回の「日本労働会館物語」では、友愛労働歴史館企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」のPRを兼ねて、片山哲について記述します。



企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」第1部「クリスチャン、政治家として生きた片山哲の生涯—1887年～1978年—」では、クリスチャン、弁護士、また政治家（戦前・戦後）として生きた片山哲を紹介します。片山は人権の擁護と社会正義の実現をめざし、また平和と民主主義のために生涯を捧げました。

彼は一方で、唐の詩人・白楽天に傾倒し、文人宰相とも呼ばれました。片山哲の90年の生涯を、写真や解説パネルで紹介します。

企画展「片山哲」第2部「片山内閣の誕生と崩壊—戦後の民主化に大きな役割を果たす—」では、片山内閣にスポットを当てます。1947年に成立した日本社会党・民主党・国民協同党の片山連立内閣は短命に終わり、今日までその評価は必ずしも高くありません。しかし、片山内閣は民法（家族法）改正、内務省の解体と地方自治の確立、労働省の設置、一連の古い政治体質の改善などの民主化政策を進めました。このような民主化政策により片山哲は今日、「戦後民主化のリーダー」と呼ばれています。



そして第3部「片山内閣を支えた人々—鈴木義男、森戸辰男、波多野鼎、西尾末廣、松岡駒吉ら—」では、片山首相を支えた主な日本社会党のメンバーを紹介します。閣僚に司法大臣の鈴木義男（1894～1963）、文部大臣の森戸辰男（1888～1984）、農林大臣の平野力三（1898～1981）、平野の後に農相となった波多野鼎（1896～1976）、商工大臣の水谷長三郎（1897～1960）、労働大臣の米窪満亮（1888～1951）、国务大臣兼内閣官房長官の西尾末廣（1891～1981）らがいます。

また、永江一夫が文部政務次官（1902～1980。芦田内閣で農林大臣）に、富吉榮二が商工政務次官（1899～1954。芦田内閣で通信大臣。洞爺丸海難事故で死去）に、土井直作（1900～1967）が労働政務次官に、そして曾禰益（1903～1980）が内閣官房次長に、それぞれ就任しています。

総同盟会長の松岡駒吉（1888～1958）は、衆議院議長として片山内閣を支えました。このように片山内閣には社会党右派（旧社民系を中心に）や総同盟関係者が多く入閣しています。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

Tel.050-3473-5325

Eメール yuairedorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedorekishikan.com>

唯一館から123年、友愛会から105年